

… 雨でも休まず；第158、159、160、170回 …
「若柳嵐山の森・小原本陣の森」から

- ・活動1：小原本陣の森：7月2日（第一曜日） 参加費300円。
弁当持参、9時15分駅前集合。車分乗で行く。
 - ・活動2：若柳嵐山の森：7月17日（第三曜日） 参加費500円。
弁当は主食だけ持ってくる事、自分の食器をお忘れなく。
 - ・活動3：甲州古道復活：7月23日（第四曜日） 参加費 なし
今月は、藤野町地区、藤野駅前集合／9時30分
 - ・臨時：都市（川崎市）～森林（小原町）を繋ぐ：小原本陣の森
7月30～31日（第五・六日）、宿泊は小原公民館、詳細は7頁。
-
- ・集合：相模湖駅前9時15分。8時42分、9時02分のJR高尾発に乗るべし。
 - ・服装；汚れても良い格好・着替え 等 足元が滑らない履物
 - ・持参品；軍手、自分の食器、万一の怪我に備えて…保険証写し
そして、作業を楽しむ“ゆとり”と怪我をしない「心構え」

森や動物がどうして貴重か

森林は、空気や水を綺麗にし、気候を安定させるだけでなく、その土地特有の生態系を育みます。生物は森から沢山の恩恵を受けて生存しています。例えば、私たちが使う薬の約40%は自然界から生まれたものです。豊かな森は新しい技術開発のチャンスを与えてくれています。世界の森林はもう半分しか残っていません。

野生動物が可哀相だからと言うだけが保護の理由ではありません。ドード鳥が絶滅した後、森林が枯れて無くなった例もあります。たった1種の絶滅が自然界全体に影響を与える事もあります。

今、絶滅の危機にある生物は、1万5000種。この数字は、自然環境がどれだけ深刻な状態にあるかを物語っています。空気や水を供給してくれる森林が無ければ生物は生存できないのです。NPO緑のダムは、世界に森林を守れとに訴えます。

活動報告 1 : 小原本陣の森：森林整備に注力／6月4日

午後は雨の予報の森に18人が集合。
＊ このような場所を放置すれば大災害に繋がる、急がねばならない

「若柳嵐山の森：約60ha」は、参加人数が増え過ぎた事、緊急を要する森林整備が終わった事、オーバーユースを避けるなどから、小原町内会と「小原本陣の森：約80ha」に取り組む事として4月～5月は夫々、美女谷尾根・小原本陣尾根・大久保沢廻行など、この森の大体の地形・地勢を調査した。

それで、今月6月は、最初の作業として先ず、基地つくりと沢筋の整備に取り組むとし大久保林道行き止まりから200m程下がった傾斜のなだらかな500坪ばかりのを整地した。雪害による欠頭木の伐倒と玉切り、蔓切り、林床整理とタチマチにして明るい森が出現した。小原町から参加の小林さんが「森林ボランティアの人たちががこんなに手際良く作業をするなんて想像さえしませんでした」と言われてみて初めて仲間たちの夫々の役割分担、身のこなしなどを観察したのだが、確かに小林さんの評価とおりで、特別の指示を出さずとも整然とテキパキと整備が進んで行く。その評価に仲間たちは勇気付けられた。雨は来なかった。



下草がない森の墓場、このような姿を掲載したくないが事実だ。

予定の作業が終わったので、何時もの通り活動の集約をして「それでは左様なら、また来月」と帰ろうとしたら小林さんが「チョット待って、家内が森に向かっているから…」と呼び止められたのだが、そう言う間もなく、小林奥さんの軽トラがやって来た。何やらと思ったが、手作りのお新香や甘漬け梅干しと何んとか言う沖縄の泡盛、紙コップにカチ割氷が差し入れられた。全くもって森は何にをしててくれるやら。森仲間は、全てに満たされて千鳥足で帰路に付いた。

活動報告 2 : 若柳嵐山の森、里山交流／FSC予備審査：6月19日。

奇跡と言うか何んと言うか、この日は向うからやって来た「国際FSC認証／予備審査の日」。この予備審査は例えれば、東大かオックスフォード大一次試験に匹敵？。これに合格しなければ本審査を受けられない。認証機関SGSから「矢口主任審査員、佐々木審査員、北林補助員」の3名の参加。

「薄曇り、時々晴れ間、過ごしやすい一日になるでしょう」の予報とおりの森に随分と沢山の101人。常連仲間47人以外に団体は、以下の通り。

- 1)、緑のダム学校11人、 2) シュタイナー学園3人、 3) 東急ミニティ8人、 4) 武藏工大情報学部：小堀研究室19人、 5)、NPO伊勢原／森林・里山研究会4人、 6)、東海大望星高校6人。

予備審査と言っても活動は、何時もの通り、ありのままを審査して貰う事にした。と言っても少しは違う。最初、認証機関からFSC審査の目的・方法が説明がありその後は、何時もの通り。

園田総隊長に審査に立ち会ってくれと頼んだが「俺いら、望星高校との約束があるから審査立ち会いは後から…」と断られてしまった。隊長は余程、高校生が好きらしい。こんな自然体が当会の特徴で、フッとあの童謡の一句が頭をよぎった。良寛さんの“お殿様のお誘いも、子供と遊ぶだで行かれません。お話するだで行かれません”。

FSC推進チームの篠田・林・藤島と石村で審査に臨んだ。その雰囲気は右の写真の通り。

午前中は書類審査。矢口主任審査員の書類提示要求を篠田チームリーダーがテキパキと処理をする。林・藤島がフォローする。

時々、石村が間の抜けた解答をする。篠田がしかめっ面をしながらも俺いらの顔を立ててくれる。昼食後、現地調査。時間の関係から森の半分を回る。残り半分は、本審査を行う。

- ・森の中、各所で活動班に出会う。
審査班が鋭い目付きで観察する。

県／企画部との共催の「緑のダム体験学校」には、橋本から一人で参加した小五の加藤遼悟君等が熱心に森を学んだ。小学五年生が一人で参加する本人もさすがだが、このように育てている親御さんも凄い。

いつも通りのまま活動は進み決まりの3時頃に各班、基地に戻り道具の手入れして終礼体制に入



書類審査と活動・現地審査を済ませた審査班は、審査講評を肅々と進めた。さすが脳天氣の石村も緊張した。定刻を10分ばかり超過して6月の定例活動は、無事故・無事に楽しく終了した。神奈川県から企画部：土地水資源対策課と津久井行C：森林課、相模湖町から溝口町長と産業観光課から参加。行政との協働体制も利害関係者としてFSC評価の対象となる。

審査結果 申請者である「NPO法人緑のダム北相模」をFSC森林管理認証の審査登録のための本審査へ推薦する。

審査員／主任審査員：矢口哲三、審査員：佐々木聰子、実習審査員：北林麗子

審査の詳細

原則1 全ての法律や国際的な取り決め、そしてFSCの原則を守っている。

1.6 「FSCの原則」を長期にわたり順守する事を「森つくり計画書」に織り込む事。

原則2 森林を所有する権利や利用する権利が明確になっている事

…… 明確になっている。指摘事項なし

原則3 昔から森に暮らす人々(住民)の伝統的な権利を尊重する。

…… 先住民のいない、この地では適用されない。

原則4 地域社会や労働者と良好な関係にある。

4.2 森林作業に関連する資格、技術講習、安全衛生講習等への参加について、記録を取りまとめる事

4.4 様々の社会的活動を実施しているが、それらに付いて「森つくり計画書」に記載する事。

・ 利害関係者との協議内容について本審査で確認する。

原則5 豊かな収穫があり、地域からも愛され利用される森である。

…… 適合している。指摘事項なし

原則6 多くの生物が住む豊かな森である。

6.1 森林施業に伴う環境影響を特定する事。

原則7 調査されたデータに基き森林管理が計画的に実行されている。

7.1 「森つくり計画書」が作成されているが、本審査までに正式な計画書を完成する事。

尚、針葉樹林で計画している択伐施業および複層林施業の詳細については、本審査において再確認する。

原則8 適切な森林管理をおこなっているかどうかを定期的にチェックする。

8.2 対象森林から生産される林産物の収穫量について、取りまとめるなど検討する事

8.3 認証木材の識別手順を明確にする事。

原則9 貴重な自然の森を持っている。

9.1 モミ巨木林が有るが、保護価値の高い森林として特定するかどうか検討する事

原則10 人工林の形成が自然の森に影響を及ぼしていない。

…… 適合している。指摘事項なし。

鋭く細かな審査の後、以上の9項目に集約して指摘されたが、夫々に準備が進んでいる項目であり、本審査の8月21日（第三日曜日）までに作業を完了する。FSC予備審査は、満足すべき内容で通過できたが、未だ気を緩める訳には行かない。認証が見えて来たことで新たな使命の重圧と思う。即ち…、

現在、地球の森林総面積は38億ha。然るに年々、加速する減少森林面積1500万haは、わが国の森林総面積に匹敵する：2005/6月10日：概算IP調べ。38億ha ÷ 0.15ha = ?年。恐るべき数字である。空気・水を供給してくれる森林なしには全ての生物が、一瞬たりとも生存出来ない問題をさておいて世界は、何んと悠長な対応をしているのだろう。

神奈川県は世界に先んじて長期・大規模な森林政策に取り組んでいる。6月議会でも再提案されて内容も随分と絞り込まれて来たと思う。熊本県や大分県でも水源環境について県民と一緒に取り組もうと言う動きがある。森林環境問題はもう、行政や林業専業者だけの取り組みでは無理な段階に来ているのだ。

第三期：通常総会／同日、4時15分から、於：相模湖交流センター。

会員出席者34名、欠席委任状8名、計42名で総会成立。オブザーバーとして認証機関SGS：3名参加。活動会員12名。参加総計57名。議長に「辻田 鮎」を選んで進めた。

総会結果

2004年事業報告：前年に引き続き 1)森をつくる事業、2)森をいかす事業に取り組んだ。

参加者実績：1443名：前年比113.7%、その他各種イベント実施。

収支報告 収入11,784千円 支出8,118千円 次期繰越3,666千円

2005年事業計画

事業計画：前年に引き続き「森をつくる事業・森をいかす事業」を神奈川県との協働事業として進める。

収支計画 収入15,119千円、支出13,665千円、収支差額1,454千円

*和気あいあいの中にも鋭い質問が飛び交ったが、満場の拍手で事業報告、事業計画が承認された。

欠席の会員には、別に総会詳細を送付。

・総会オブザーバーとして出席したFSC認証審査の3名の審査員を送り出す時、矢口主任審査員の顔を見て驚いた。朝、見た時は生気にあふれる精悍な顔付きがゲッソリと頬をこけさせ、黒ずんでいる。FSCの審査とは、それ程、精力を使うのだろう。その顔を見て石村は、戦慄した。

次いで懇親会は、館内の「軽食：ル・ポン」で楽しく開催した。白石晴輝の名進行のお陰で盛り上がりに盛り上がったが足出しは、2千円で済んだ。感謝。

*その翌日、篠田をリーダーとするFSC推進チームから、昨日の審査のやり取りの詳細な記録が送られて來た。読み返して、そんなに厳しい質疑応答だったのかと改めて緊張を覚えた。園田、篠田、仲間たちは、認証を取る事が目的ではない。認証に至るプロセス、取得後どのように森と関わるかが問題だと言っている。正に、その通りだと思わせる内容だ。世界の人々に森林を知って貰うために、これに至るプロセス、将来に向けての課題も整理して世界に向けて出版発信する。

臨時活動 1、第39回：全国建具展示会：於／横浜パシフィコA展示館。

6月18日～20日。



活動日とFSC審査のため活動のパネル展示のみの参加となった。だが、正面入り口の2番目のメインスペースを割り当ててくれた「神奈川県建具協同組合」のご配慮が有った。当会活動のパネルをシゲシゲと覗き込んでくれている人々に感謝の気持ちで満たされた。

神奈川県の建具組合は何んとかして国産材・県産材を使ってわが国古来の伝統技術をいかしたい。特に、青年部が頑張っているが、青年部を引き立てよう・育てようとする組合執行部の幹部の方々の努力も相当なものだ。当会の法人会員となって頂いており歩調を合わせて県産材の普及に努めている。

臨時活動2、甲州古道発道復活：貝沢／横道沢。

6月21日：元々は油道（そめぢ：菴・駕籠などの道）が徳川幕府によって開削された甲州古道（道中）は、海山産物を運ぶ商人や修行の武士が通った道。この微かに残る道跡：古道跡：貝沢横道を相模湖町の人々と補修した。町の人の噂で知った一昨年は、未だ、これと分かる程度だったが今年、行ってみると、広葉樹の幼木がおい茂って放置すれば完全に森に埋もれてしまう危機感を持った。ここは、明治天皇、葛飾北斎、松尾芭蕉、板垣退助、近藤勇も通った。そんな歴史の一翼を担う甲州古道復活班は、黙々と古道の再現作業に精を出した。

相模湖町域内の残る古道跡はあと2ヶ所、小原新興集落入り口近くの某家の裏口から高速道路をくぐった先まで約300m、高速道路沿いに藪を搔き分け搔きわけ小さな沢を涉るあたり。ここは今年、高速道路拡充のために姿を消した。



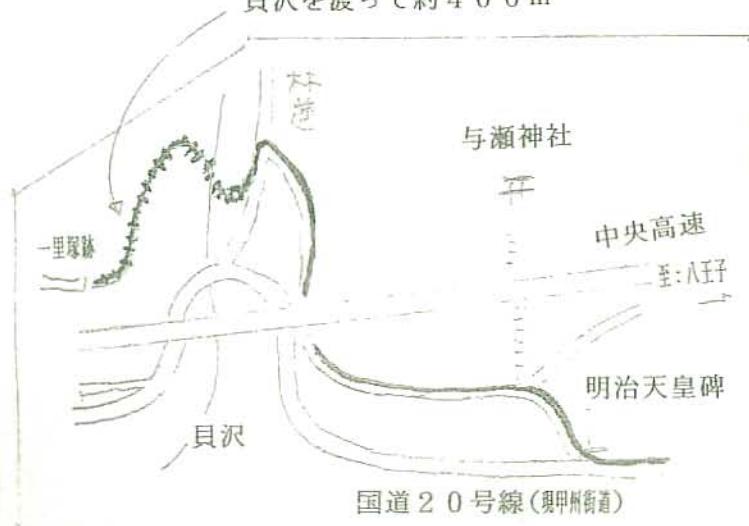
この間、埋もれてしまっている甲州古道
貝沢を渡って約400m



古道修復の姿は写真の通りだが、下手でもボランティア活動だから素朴な心のこもった修復だと思う。

この作業の参加者は、中里利夫さん、永井宏一さん、清水 怡（あいか）さん、榎本和夫さんと森林仲間の4人、計8人。小仏峠～笛子峠までをつなぐ貴重な埋もれた道の修復の最初の一歩を標す相模湖町の古道修復参加者のお名前は、歴史の一ページの記録されて良いと思う。

過去に思いを馳せ、現在を考えれば、将来が見えて来る…、そのような価値ある事に取り組ませてくれる森林に感謝する。



予告：森林と都市をつなぐ…「相模湖／小原町～川崎市森の集い」

4月に相模川上流各地から森林組合、製材組合、森林NPOなどが、川崎市のJR貨物跡地に出掛けて都市部の人々に森林活動を広報した。こんな動きを受けて今度は、都市部の人々が森林部に来て森林体験をする事になった。これまでやってきた「緑のダム学校」とは異なる“小原町内会+川崎市民”との間で都市と森林をつなぐ…「相模湖：小原町～川崎市森の集い」をする事になった。

期日 7月30日～31日（第5土日）：1泊3食。

場所 小原本陣の森、小原の郷、小原本陣

共催 小原町内会、NPO緑のダム北相模、川崎幸まちづくり研究会

集合 森林NPOはJR相模湖駅前9時15分、川崎市の人々は市内指定場所（検討中）

参加費 緑のダム会員：森林NPOインストラクターは実費

宿泊 小原町公民館

公共：公と共に受け持つNPO

国内では、安い輸入材が入って来るようになって国産材が売れなくなり私有林の所有者は、森に手が入れられなりました。平成13年に38年振りに改正された「森林・林業基本法」は、従来の治山治水、木材生産から森林の多様性・公共性にシフトしました。

行政は一律、公平が原則であるために荒廃の進む私有林対策に身動きができなくなっています。そこで、非営利活動である当会は公：行政の手の回らない部分を代行して私有林の保全・再生をお手伝いしましょうと実践しています。

また、人々の連帯と自立によって支えられる“共”的部分も受け持とうと言う欲張りな存在でもあります。当会は、林業関連企業や行政に物申す事をしてはいますが、それは非難ではなく企業や行政の手の回らないところ、公と共に役割の一部をNPOが引き受けようと言う事です。

徳川時代から続く林業行政は、歴史の経過のゆえに矛盾と閉塞の中にあり今や、森林の公益的な側面が破壊の危機に陥っています。歴史的には社会構の変化に付いて行けない林業システムの矛盾であり、経済社会の要求に妥協せざるを得ない環境問題が原因です。

この矛盾と閉塞を解決できるのは、真の民主主義「森林地域住民・都市地域住民+学際+業際+行政司法立法」全ての人々との協働が必要です。空気・水を供給してくれる森林への理解・積極参加・平等・協力・連帯して善意無償の行為を行動するのが森林NPOです。もうこれは社会資本と言えます。企業も行政も一般の人々もこの事に気付いてくれなければなりませんし、森林NPOを活動する者は、自分達の社会的意義を知るべきです。森林は“癒し・遊び”だけの対象ではありません。

経済発展と情報技術の広がりは、社会を多様なものにしました。わが国のような経済的に豊かで情報あふれる環境の中では、様々な価値観と行動様式・生活様式が生まれています。

そのような社会において行政だけでは対応できない問題が発生しています。キメ細かな活動を得意とするNPOを上手に使う事が求められます。

考えてみればNPOは実に不思議な存在です。善意・無償で公益活動をする。マズローの欲求の五原則のうち自己実現の欲求に当たるのでしょうかが、どうもそれだけでは説明できない部分があります。

相模湖の今昔（2）

… 相模湖の出現 …

相模川の南岸の勝瀬集落と広大な水田地帯、北岸の与瀬側を水瓶にして、嵐山山麓の急峻な河岸壁の川幅の狭い峡にダムを設置する工事に着工したのは昭和15年でした。

昭和の曲がり角の満州事変以降15年戦争に突入し、第二次世界大戦に拡大した最中の非常時代下の国情の中での大事業で、神奈川県の企事業を越えた国家的任務を担っていました。

ともかく、相模ダム建設は日本の先駆を為した神奈川河川統制事業として、昭和15年11月25日に着工、7年間の歳月を要して昭和22年6月14日に完成しました。

ダム建設は、まさに第二次世界大戦の真っ最中で若い青年は戦場に駆り出され、戦争末期には壯年層まで戦闘要因や軍需工場へ挑発されたばかりでなく、学徒動員による非常事態となりました。

こうした非常事態下のダム建設の労働力の不足は、中等学校の生徒や大学生による学徒動員だけでは労働力を充足できるはずではなく、総労働力の60%は、今なお国際問題になっている韓国や北朝鮮の人達と中国人捕虜の人達でした。非常事態下のダム建設は、国難そのものを反映したものでした。

7年間の長期にわたるさしもの難工事も完成、日本最初の人造湖が出現しました。重量式コンクリードダム、総発電量電力は54,000kW、ダムの高さ158.4m、長さ196m、面積は東京ドームの250倍、箱根芦ノ湖の2分の1です。

このダムの建設のためな固定に沈み故郷を去った人達は、勝瀬80、青田3、吉野反田前5、与瀬7、小原1、千木良1、内郷3、小渕1、山梨県島田22戸の合計123戸の人達です。

転移先は、神奈川県内の海老名市、厚木市、相模原市、相模湖町と東京都の日野市、八王子市、そして静岡県御殿場市です。完成後半世紀を経ていますが、望郷の念すて難いものがある事でしょう。

文責 中里

- | | |
|--|---|
| 1) 7月2日(第1回：小原本陣の森：
参加費300円、弁当持参。
ソーメン流しの準備もする。 | ・モットー：無理せず、急がず、休まず、楽しく
ボチボチと…、そして…沢山のご意見下さい。 |
| 2) 7月17日(第2回：若柳嵐山の森
9時15分駅前集合、参加費500円
FSC本審査の準備も進める | ・名 称 さがみ湖・森つくりの会
N P O：緑のダム北相模／森林部会
事務局 154-0023
東京都 世田谷区 若林3-35-9 |
| 3) 7月30~31日(土日) 参加費500円、
泊まりは2000円、文中詳細
「小原町；川崎市交流の訪問授業」 | TEL&FAX 03-3411-1636(自宅)
T E L 03-3411-0602(事務局)
・お世話係 石村黄仁 (自然科学研究所 事務局) |

* 協働団体  セブン-イレブンみどりの基金 神奈川県 (企画部、津久井行政センター)
HPアドレス：<http://www008.upp.so-net.ne.jp/kitasagami/>

* ご支援自然保護団体：世界自然保護基金日本委員会、国土緑化推進機構、損保ジャパン環境財団
神奈川社会チャレンジ基金、東急コミュニティ。